

能代市地域展開だより

能代市教育委員会 生涯学習・スポーツ振興課 TEL:0185-73-3221

2025. 10. 30

Vol. 01

中学校部活動の地域展開への取組について これまでの取組

国では、中学校の部活動改革を進めるために令和6年8月、有識者による「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議(※)」を立ち上げ令和7年5月、最終とりまとめを示しました。

その中で、「中学世代の人口は更に減少し、学校部活動を巡る状況は、ますます厳しいものとなっている。(中略)このタイミングで更に改革に向けての取組を加速させなければ、子どもたちに豊かなスポーツ・文化芸術活動の機会を保障できなくなることが強く懸念される。」としています。

市では、令和5年12月「能代市部活動地域移行推進計画」を策定し、部活動改革に取り組んでいるところです。しかし、様々な課題に直面し、現計画の見直しを検討しながら、子どもたちのためのよりよい環境整備を目指しています。

(※)「実行会議」について

今後の方向性を決める会議

会議には、青山学院大学駅伝部の原晋監督、元バレーボール全日本の益子直美さんなど全国の首長や教育長がメンバーとなり話し合いを重ね、令和8年度以降の部活動改革について、提言しました。「最終とりまとめ」では、急激な少子化が進む中でも、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実するのが改革の主目的」とし、令和13年度までに休日の部活動を完全に地域クラブに移行することを目指すとしています。



少子化の影響イメージ 野球部3人だけの練習

急激な少子化が進む中で・・・

能代市の現状は・・・

本市においても、急激な少子化が進む中、これまでと同じ形式で学校部活動を継続することは困難になってきています。そのため、部活動を学校のみでの活動から学校を含めた地域のスポーツ・文化芸術団体(地域クラブ)活動へ展開を図っています。また、長年にわたり教員が指導を担い学校部活動が運営されてきましたが、教員の働き方改革や専門性の観点からも、その体制は

限界を迎えています。これからの方向性や目指す時期など見直しの検討を進めていますが、現中学生や小学6年生は、基本的にはこれまで同様の部活動を想定しています。

続いては、なぜ地域展開が必要なのか、具体的に説明します。

なぜ地域展開するの？

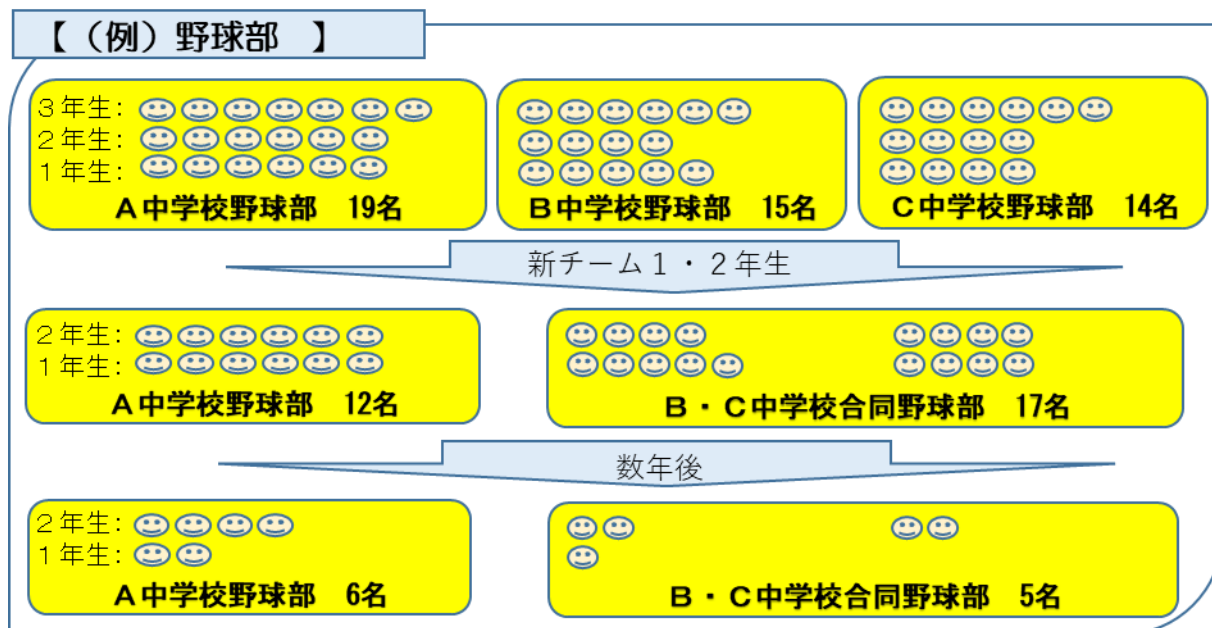
能代市中学校生徒数の推移

(単位：人)

学校名	H27	R2	R7	R12	R17	R19
一中	226	202	125	736	576	460
二中	296	298	249			
東中	139	100	87			
東雲中	242	237	166			
南中	203	167	150			
常盤中	38					
二ツ井中	193	133	118			
計	1,337	1,137	895	736	576	460

約10数年後には、生徒数が半減と予測され、学校部活動の継続が困難となります。

現在でも下図のような状況が起きています。



こうなると・・・

「ABC中学校の合同野球部？」「指導者は誰が？変わるの？」「毎日の練習や場所は？」

「各学校に顧問は必要？」「学校では廃部を検討」「市内だけではチームを組めない」など、これまでどおりの各学校のみで運営していた部活動の継続は不可能な状態となります。

こうなる前に・・・

学校を含めた地域全体で子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の新しい環境を作る必要があります。地域展開のモデルケースとして令和5年9月に誕生したNOSHIROソフトボールクラブは、この秋から市内生徒8人、三種町生徒2人の計10人で、保護者の方々の協力を得ながら元気に活動しています。